

平成 30 年 3 月 12 日

平成 29 年度奨励教育費助成「日本語表現教育の質的向上に向けて」報告書

心理学科 武井昭也

事業の目的

本学は 20 年前の教育課程から「日本語表現」を必修として短大生・大学生の日本語運用能力の向上を図ってきた。本研究はインターネットや携帯ツールの広がりとともに高校生・大学生の読書量の低下と日本語運用能力の貧弱さが指摘される状況で、本学学生の日本語運用能力の課題を確認し、効果的な学習方法を再構築することで日本語表現教育の質的向上を提言することを目的とする。

そのために、日本語表現教育の実践事例を収集し、教育課程への反映と<Writing Center>機能の具体的な検討を行う。

1. 視察訪問

(1) 愛知淑徳大学

訪問日：平成 29 年 10 月 16 日

対応者：初年次教育部門教授外山敦子氏

内 容：ライティング・サポート・デスク、  
日本語表現科目内容と組織

(2) 国際教養大学

訪問日：平成 29 年 11 月 13 日

対応者：日本語プログラム代表教授阿部祐子氏

企画課企画・広報チーム齊藤恵美氏

内 容：日本人学生の日本語科目、アカデミックライティング、図書館のライティング・サポート

(3) 立命館アジア太平洋大学

訪問日：平成 29 年 12 月 8 日

対応者：学長室課長大嶋名生氏

内 容：一回生演習・スタディスキル・アカデミックライティング、ピアリーダートレーニング入門、FIRST プログラム、SALC (Self-Access Learning Center/言語自主学习センター)、ライティング・センター

2. 学生アンケート調査

本年度大学全学科 1 年生「日本語表現 I」において実施。各学科ともに語彙力の不足と強化を期待していること、日本語表現科目の学習成果を感じていることを確認できた。

3. 提案 (次頁以降に詳細を掲載)

(1) Writing Center 組織を立ち上げ、学生を Assistant Teacher として対応させる

(2) Writing Center を 1 号館脇 English Village 横に設置し、学生の支援に対応する  
(授業課題の文章作成、レポート作成、就活に関わるエントリーシート等)

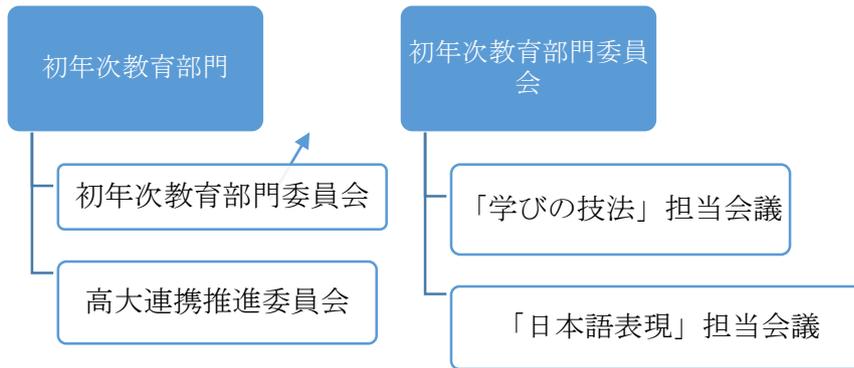
(3) 日本語表現科目担当を任期付き (5 年助教) で増員し、初年次教育部門で統括する

(4) 日本語表現科目の展開内容を再検討する

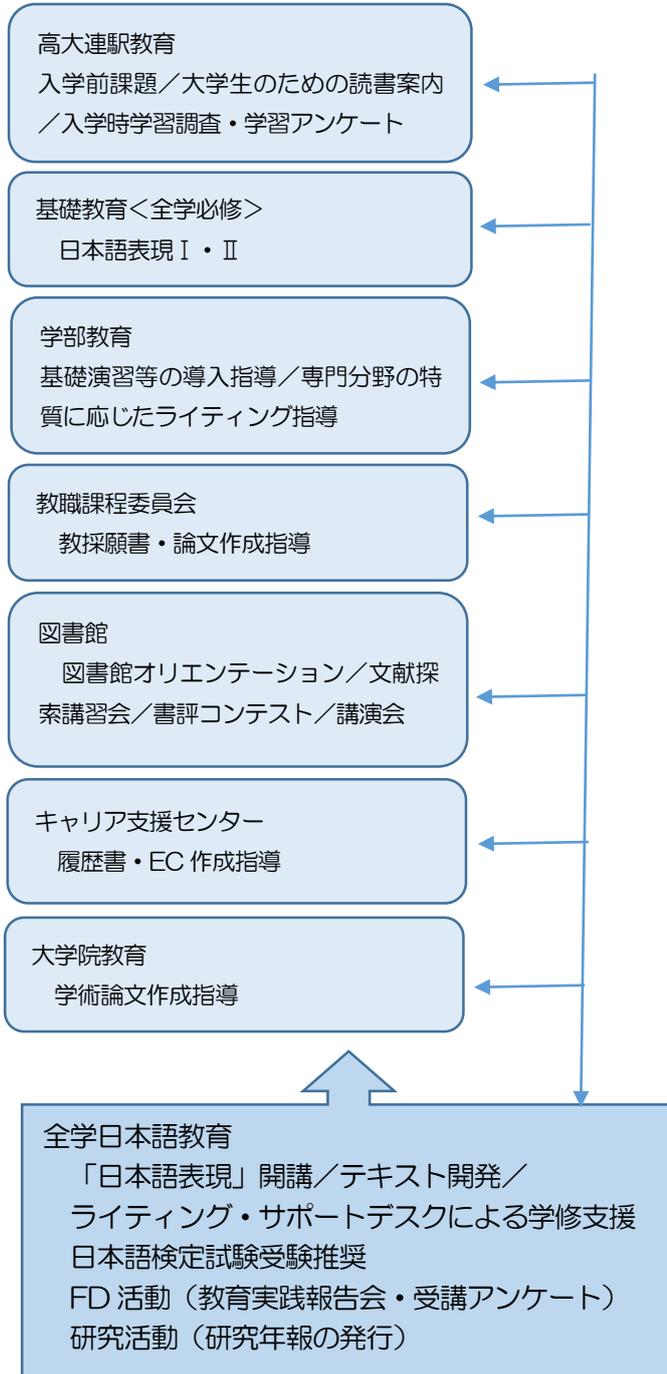
(5) 「学びの技法」との棲み分け、年度ごとの成果と課題の検証をまとめ、報告する

#### 4. 「日本語表現」科目の改善提案

##### ① 組織概要



##### ② 日本語リテラシー教育の全体構想



### ③「日本語表現」全体像

#### 基礎（1年前期・後期）

「日本語表現Ⅰ」: 語彙力・大学での学修に不可欠な文章力（事実を説明する力、論理的に自分の意見を述べる力）の技法を学ぶ

「日本語表現Ⅱ」: 語彙力・レポートの書き方、口頭発表の方法の基礎を学ぶ

#### 発展（2年以上）

- ・卒業後の社会生活に必要な日本語表現のスキルを実践的に学ぶ
- ・学術的な日本語表現のスキルを実践的に学ぶ
- ・豊かで創造的な日本語表現のスキルを実践的に学ぶ

### ④授業計画例

#### 「日本語表現Ⅰ」

小テスト 10回（漢字検定2級程度）

①オリエンテーション・プレテスト
②句読点、引用、基礎的な事項の確認
③事実と意見
④書き手の意図を正確に伝える
⑤課題1 準備 アイデアの導き出し
⑥課題1 執筆 添削・評価
⑦課題1 推敲
⑧課題2 準備
⑨課題2 執筆
⑩課題2 推敲
⑪課題3 準備
⑫課題3 執筆
⑬課題3 推敲
⑭到達度確認
⑮まとめ・自己評価

#### 「日本語表現Ⅱ」

小テスト 10回（日本語検定2級程度）

①オリエンテーション・テーマの選定
②資料収集 文献探索方法
③資料読み情報整理 文献精読
④アウトライン作成
⑤中間報告
⑥全体像の検討 レジюме作成
⑦論点整理と分析
⑧グループ発表1
⑨グループ発表2
⑩グループ発表3
⑪グループ発表4
⑫レポートの書き方 引用
⑬レポートの書き方 パラグラフライティング
⑭推敲 ピア・レビュー
⑮まとめ・自己評価・レポート提出

### 発展科目例（「日本語表現」ビジュアルコース）

①文書作成1 表記・表現、敬語
②文書作成2 手紙用語、ビジュアル文書
③文書作成3 縦書き手紙
④文書作成4 横書き手紙
⑤社外文書1 特徴・基本
⑥社外文書2 商業・取引系
⑦社外文書3 社交・儀礼系
⑧社内文書1 特徴・基本
⑨社内文書2 伝言札
⑩社内文書3 通知書・報告書
⑪社内文書4 議事録・企画書
⑫e-mail 基礎知識
⑬FAX・郵便の基礎知識
⑭履歴書、EC、添え状
⑮まとめ

## 5. まとめと今後の課題

これまでの調査・研究の過程で、writing center が個々の学生の能力や要求に対応できる機能を備えているだけでなく、文章表現を通して情報伝達上何が必要なのかということや、そのためにはどのような表現が求められているかを学生自身に再度考えさせる機会を提供する場になっていることを確認した。また、そうした writing center も、単独で表現教育を担当するものではなく、WAC (Writing Across the Curriculum) に支えられて、全学的協力体制のもとではじめて、十分な機能を果たすことを述べた。すなわち、大学入学者の言語表現能力の育成における学習支援は、とりもなおさず、大学の組織としての教育システムの構築がなされてこそ、有効に行われるものであり、教授者個々の教育目標や裁量のみ依存するあり方を見直し、

学習者に必要とされる（場合によっては、学習者が必要とする）表現能力を見極め、それに応じた教育のあり方が問われている。

表現教育が果たす教育の基礎的な部分と各専門領域や研究分野で必要とされる表現力の橋渡し、すなわち、表現科目担当者と専門領域科目担当者の相互理解と協力体制は、具体的には、どのように行われ、どのような問題が生じるのか。また、施設設備の問題や tutor の育成における課題にはどのようなものが想定できるのか。これらの課題については、全学の教育方針のもとに検討されるべきである。

そして、ジェネリック・スキルに対する考え方と「入学者受け入れ方針」「教育課程の編成方針」「学位授与に関する方針」との関連で深められるべきである。

このような意識の元に全学的な取り組みに向けて検討すべき課題を挙げる。

- ①授業担当者、部門統括コーディネーター
- ②複数科目担当者間の指導内容と評価の調整
- ③学生の学習意欲や学力差への対応
- ④必修科目単位未修得学生への支援
- ⑤学修成果の測定方法
- ⑥専門教育科目への接続連携
- ⑦学内の教育組織との連携

これらの課題について具体的に検討し全学的な取り組みを進めるために、まずは教職員の共通理解と学生への統一したオリエンテーションに向けた学内環境（人的配置・施設・カリキュラム）整備が必要である。

#### <参考>学生アンケート結果（平成 29 年 7 月実施）

平成 29 年度大学全学科 1 年生「日本語表現 I」において実施した。実施対象学生数 279 名一回回収数 207 名（回収率 74.1%）各学科ともに語彙力の不足と強化を期待していること、日本語表現科目の学習成果を感じていることを確認できた。

1. 学生時代に身につけておかなければならない日本語の力はどのようなものだと考えますか。優先順位順に記号を入れてください「その他」は具体的に記述してください。

ア漢字力 イ語彙力 ウ読解力 エ文法力 オ表現力 カその他

問1	1 番	2 番	3 番	4 番	5 番	6 番		
ア 漢字力	32	50	35	46	51	7		
イ 語彙力	98	57	32	15	10	1		
ウ 読解力	35	57	77	40	24	1		
エ 文法力	8	19	41	66	81	8		
オ 表現力	30	39	43	52	63	5		
カ その他	10	0	1	4	4	111	空欄	90

その他					
礼儀		文章をまとめて書く力			2票
応用力		コミュニケーション能力			3票
発想力		判断力			
態度		説明力			5票
推敲力		会話力			
理解力		話し・書き言葉			20票
イントネーション	1票	速読力			11票
綺麗な字を書く力					
表情					
想像力					
トーク力					
正しい言葉の使い方					
考える力					

2. 学生時代に身につけておかなければならない表現力を、優先順位順に記号を入れてください。「その他」は具体的に記述してください。

- ア 話したりスピーチしたりする方法
- イ 自分の意見を的確に伝える方法
- ウ 正しい手紙の書き方
- エ 適切な敬語の使い方
- オ 適切な対応の仕方（接遇法・お客様との対応など）
- カ その他

問2	1番	2番	3番	4番	5番	6番		
ア	42	54	65	46	17	1		
イ	81	65	38	37	7	1		
ウ	4	10	22	46	121	8		
エ	74	55	52	35	12	1		
オ	18	40	48	59	52	4		
カ その他	5	1	1	1	5	97	空欄	107

その他							
字の綺麗さ						表情	2票
日本語の使い方						1票	
相手を納得させる方法							
作文							
相手の会話を察する能力							
議論する力							
理解力							
相手にわかりやすく							
文章等を伝える力							
臨機応変な言い回し							
トーク力							
自分の意見を書く力							
礼儀							
判断力							
恥ずかしながらないで皆の前で話せる力							
場に応じて敬語を使う							
表情							
ジェスチャーで伝えられるか							